

「唐丹希望基金」は 「善循環社会 家族日本」を目指します。

唐丹希望基金は「**愛のあいうえお運動**」だ。

世の中に **あ**いの花を咲かせる運動だ。

子どもたちに **い**きる力を与える運動だ。

震災を忘れないために **う**たを広げる運動だ。

素晴らしい **え**がおを広げる運動だ。

世界に広がる **お**おきな運動だ。

(標語提唱者：唐丹希望基金副代表 堀泰雄)

2016年4月「唐丹希望基金」は第二ステージを歩みだしました。

これには、動機になった出来事がありました。2016年3月3日、高館千枝子がNHK ラジオ深夜便「明日への言葉」に出演したことです。

ラジオで「唐丹希望基金」の5年間の活動と想いを話した事で、新たな想いが生まれ、各地で「鎮魂の歌」を歌っている方を訪ね、感謝を伝える「**鎮魂の歌 巡礼の旅**」をしよう、と思ったのです。

2012年9月、「鎮魂の歌 10,000人普及活動」を始めたものの、この5年間は募金に力を注ぐので精一杯で、しかも、被災地の方たちに、この歌が受け入れられなかったこともあって、積極的に取組みませんでした。

ラジオで話した、「世界へ広まれ鎮魂の歌」にふさわしい活動をしなければ…という思いにかられ、京都アンサンブルコスモス主宰 嶋澤純子さん企画「Kinko Music : FAMILY CONCERT 2016」に参加するため、京都を初めての旅先に選びました。

ここに、坂口憲一郎さんが「鎮魂の歌」に合わせてハソウを吹きたいとの、知らせを頂いた時はビックリしました。「唐丹希望基金」は、これまで数々の奇跡（出会）に助けられながら、唐丹小・中学生の教育支援を可能にしてきましたが、2020年まで坂口さんが「鎮魂の歌」と共にハソウを吹いて下さる事を知った時は、「これは、奇跡！」と思いました。

ハソウは亡くなられた人の鎮魂のため奏でたと言われる、備前焼 須恵器です。「岡山ハソウを楽しむ会」代表 坂口憲一郎さんが東日本大震災犠牲者に捧げる「鎮魂の歌」に心を寄せて頂ける事は、大変、心強く思います。

「鎮魂の歌」を世界へはば立たせるために尽力して下さった方達を、忘れる事は出来ません。司令塔になって下さったのは横浜エスペラント会 牧野三男さん。牧野三男さんの要請に答えて、この曲に関わった方達は全員エスペラント会員。エスペラント歌詞に翻訳した小西岳さん、岩手県のごく一部の人だけしか知らない、この歌の知名度を上げるため、ボーカロイドソフト“初音ミク”による「鎮魂の歌」日本版、エスペラント版を YOU TUBE に投稿したのは、故 西川悟さんと林 周行さんです。楽譜制作には山田 義さんが携わりました。歌が発表された9月中旬から僅か3ヶ月半で全ての作業が終了。2013年1月初旬に歌を YOU TUBE に投稿、楽譜をホームページで公開しました。すると、登録人数も徐々に増え、YOU TUBE への投稿数は報告があったものだけでも楽譜を含めて31件です。

2016年7月現在、“鎮魂の歌登録者数”は9,777人になりました。

「唐丹希望基金」は、「世界へ広まれ鎮魂の歌」を胸に秘め、“善循環社会・家族日本”の衣をまとい、「愛のあいうえお運動」を掲げて歩みます。

東日本大震災・大津波によって多くの人命、財産、職場、町までものみ込まれ、いまなお生活が困窮している方が沢山いらっしゃいますが、あの悲惨な状況を見、いたたまれなくなった人々の結末に繋がり「唐丹希望基金」が誕生しました。任意団体でありながら、5年も募金活動が続いた陰には理由があります。それは、「あなた達の働きは、愛の花を咲かせるために被災地に必要なお仕事ですヨ・・・」と、励ましとも思える呟きがどこからともなく聞こえ、崖っぷちに立ちかかったその時に、最も相応しい出会いが訪れ、その力に救われながら、ここまで来る事が出来ました。

「唐丹希望基金」が真に目指すべきもの。

それは、子供達へ引き継ぐべき社会「善循環社会・家族日本」の創造です。

これは「唐丹希望基金」を解散しても、家庭や学校、社会に溶け込むよう、生涯活動とも言えます。「愛のあいうえお運動」を広めるため仲間を増やし続けていくことを止めるわけにはいかないのです。

今こそ「家庭は簡素に、社会は豊富に」を実践する時なのです。

皆様、一緒に進んで参りましょう！

「鎮魂と平和の笛壺」に声、声、声が・・・

EEC 通信 73 号 2016・8 月報告 <http://eec-2020.com/tushin/73tushin.pdf> : 坂口憲一郎さんの「鎮魂の笛壺・平和の笛壺を吹き鳴らそう」にメッセージが届きました。8 月は、広島、長崎の原爆の日、終戦記念日に加え、戦後 50 年を期に始められ毎年 8 月の第一土曜日に行われている「英連邦戦没捕虜追悼礼拝」を知り、平和について深く考えさせられました。寄せられたメッセージに対し、坂口さんが丁寧に返信して下さいました。この情報を共有し、平和への願いを深める一助にしていきたいものと思います。

◆残暑お見舞い申し上げます。牧野コーラス 今井幸子（横浜市）

これからの「希望基金」にエールを送ります。

横浜市保土ヶ谷区狩場「英連邦戦没者墓地」は今井の自宅から 20 分程の位置にあります。本当に驚きでした。1946 年生まれの人にとってはなかなか戦争の繋がりが見えて来ないのです。

エリザベス女王、ダイアナ妃も見えています。広さはありませんが、自然を残して桜や木々が生かされており、一人、一人に墓石が刻まれ、それぞれの四季が写し出されています。丸く形どられた大きな花輪がいくつも飾られていたのを見たことがあります。児童遊園地、こども植物園、英連邦墓地が輪になっているようです。

現在は、開けてきましたが、山ずたいの所ではあったと思われます。横浜は急陵地帯が続くところなのです。午後 5 時、門が閉まります。永瀬 隆氏のドキュメンタリー映画「クワイ河に虹をかける男」見に行きます。

◆追悼礼拝の呼びかけ人は、故永瀬隆さん、青山学院名誉教授の雨宮剛さん、故国際基督教大学副学長の斎藤和明さんの 3 人が呼びかけ人となり、戦後 50 年を期に始められ毎年 8 月の第一土曜日に行われています。8 月の酷暑の中、追悼礼拝が執り行われるのは、過酷なタイのジャングルで鉄道建設に強制労働をさせられた英連邦の捕虜たちを思い、おこなわれています。イギリスをはじめ英連邦の各大使館関係者、オランダ大使などが参列してきました。20 年もたつと報道されることもなく、だんだん忘れられ、日本の戦争体験者も亡くなる方が多く、今こそ、永瀬さんの遺志を、後世に残すことが貴重なことだと思います。是非、保土ヶ谷の英連邦墓地を訪れ、日本ばかりでなく、20 代の多くの若者が過酷な戦争のため、命を失い、関係家族が墓参りに訪れていることを知るにより、平和のありがたさを知る機会にしてほしいものです。始まった頃には、平和学習の中、高校生も参列していましたが、最近はその姿も見ることは少なく、参列する方は、高齢者、キリスト教関係者ばかりです。時代とともに、世の中が変わります。

戦没捕虜追悼礼拝、慰霊祭は、雨宮先生の薫陶を受けた牧師の奥津隆雄さんが、実行委員会代表として後を引き継いで行われています。奥津さんの連絡電話は、042-959-7567 です。坂口憲一郎（岡山市）

◆インフォメーションを有難うございました。私も英連邦戦没捕虜追悼礼拝に一度は行って見たいと思っておりますが、やっと長年の念願でした広島原爆記念礼拝に昨年参加出来ました。

次は横浜のこの式典に参加できるといいなあと考えています。

本当に私達が平和を真剣に考える事が他人事で終わる事はありません様にと祈ります。 道城義子 弐

◆英連邦墓地には訪問したこともあるのですが、このような歴史があるという事を初めて知りました。

坂口さんにも感謝しております。村田 和代（横浜市）

◆皆さんに、追悼礼拝を通じて、平和のありがたさを知っていただければ幸いです。坂口憲一郎（岡山市）

◆今日、一粒の種が道城さんの心に蒔かれました。

「良い地に蒔かれた種は、やがて実を結び、あるものは百倍、あるものは60倍、あるものは30倍にもなった。」
これは、新約聖書マタイ伝の種まきのたとえ話、そのものと思いながら Mail を送ります。

今、世界で起きている事を悲しまない人は誰もいないはず。どうか、世界が平和であってほしいと誰もが思っていますが、それを声にして行動する人が少ないだけに、～鎮魂の笛壺、平和の笛壺を吹き鳴らそう～は私達に大切なことを語り掛けています。道城さんの平和を願うご友人にお伝えくださいますように。

10月に、備前でお会いしましょう。そして、平和を願いながら「鎮魂の歌」を一緒に歌いましょう。高館千枝子

◆一粒の種は一粒では終わらない！

いい加減に聞いているのではなく、真剣に考え行動する勇気が伴わなければと思いを同じくし、嬉しくなりました。

10日ほど前に少し麻痺が左手にでて、コカリナが吹けなくなっているのです。

10月には元通りになっていますようにと、祈る毎日です。道城義子（滋賀県近江八幡市）

◆8月6日（土）の第22回英連邦戦没捕虜追悼礼拝は、誰でも参加できます。事前の申し込みもいりません。これまで、多くの方に参加を呼び掛けてきました。呼びかけ人の永瀬隆さんは、横浜市民が少しでも参加していただけるよう、当時、横浜の中田市長にも働きかけましたが、横浜市は、話に乗らなかったようです。

なぜ追悼礼拝が行われるようになったのかというのは、オーストラリアのカウラ事件というのがあります。これは、ニューギニア戦線などで、餓死寸前の日本兵が、捕虜になり、オーストラリアのカウラ捕虜収容所に收容され、食事やレクリエーションで優遇された日本兵が、すっかり健康を取り戻し、生きて虜囚の辱めを受けずという戦陣訓をたたき込まれた日本兵、およそ900人が、ナイフやバットを武器に、暴動をおこし、監視の兵に突撃し、231人が死亡、オーストラリアの兵隊も4人死亡という事件を起こしました。生き残った兵隊は、自分が捕虜になったことが知れると、日本の家族が村八分になると、ほとんどが本名を名乗らず、埋葬された死者も偽名のままだったということです。しかし地元のカウラ市が、日本のために戦い亡くなった兵たちをそのままにせず、戦後、日本人捕虜の墓地を整備し、慰霊をしているのを、永瀬さんが知り、日本で強制労働で亡くなった英連邦兵士の慰霊を呼び掛け、実現したいきさつがあります。英連邦兵士の多くは、タイのクワイ河での鉄道建設に携わり、日本に送られ、強制労働や栄養失調で死んだ人達です。多くの方が参加されたら、永瀬さんも天国で喜んでいると思います。私は、今回は参加しませんが、これまでほぼ参加していました。日本にこんなところがあるのかとびっくりしました。イギリスは、王族、首相などが来日すると必ず参拝するようです。坂口憲一郎（岡山市）

◆8月の第一土曜日は、毎年、晴天に恵まれています。英連邦捕虜追悼礼拝は、暑さ最高潮の時。例年にも増して、厳しい酷暑の中で今年も行われたと思います。10年以上前、ここで出会った、イギリス人の元捕虜が話した一言は、今も、残っています。「Atomicbomb Save My Life」私はシンガポールの收容所で穴掘りをさせられていました。何のための穴かわかりますか。自分が埋められる穴だったんですよ。原爆が落とされていなかったら、、私は、ここにきていませんでした。

原爆投下は、戦争というものを考える大きな出来事だと思います。

東京大空襲では、無差別攻撃で一般市民が10万人を超えるほど亡くなったとされています。かつて、グアム島から生還した横井庄一さんが奥さんの問、、戦争をなくすためにはどうすればいい、、に、横井さんは「欲望」を抑えることだと言っていたといひます。欲望にもいろいろありますが、、人間が生きていくためには必要ですし、、難しいことですね。地球に生かされている生き物たちが、、人間もその一つですが、、一人ひとりが、謙虚に生きるということでしょうか。残り少ない時間を、、心がけたいと思ひ暑さを楽しんでいます。坂口憲一郎

◆7月12日の坂口さんから届いたメール。 高館千枝子

堀さんの報告も読ませていただきました。できるだけ早く長善寺仏教婦人会の体験レポート送りたいと思います。今日は、映画「クワイ河に虹をかけた男」を見てきました。私も、主人公の故永瀬隆さん夫妻の活動に関わりました。イギリスへ行ったり、アメリカへ行き、番組を作りました。ラジオ深夜便でも放送し、びっくりするほど寄付金が集まり、タイの若者たちに教育支援金、奨学金として使われました。それにより、何百人もの医療関係者や看護師の他、社会に貢献する若者たちが誕生しています。2時間のドキュメンタリー映画です。先日、盛岡にお邪魔したとき、時間があれば訪ねたいと思ったのは、駒井さんというカンチャナブリ捕虜収容所の副所長、陸軍大尉、駒井光男さんというかたの息子さんです。捕虜虐待の戦犯の子としてたいへんご苦労されて、お父さんの代わりに、イギリスへおわびに行かれた方です。映画でもイギリスでの交流や横浜保土ヶ谷英連邦墓地での慰霊祭に参加された様子などが出ていました。私も、イギリス人のエリック・ロマックスからの弔電を代読ということで出ていてびっくりしました。かつて、ロマックスからイギリスに来たらずひ家に来るようにと言われ、訪ねたこともありましたが、映画を製作した満田監督に会いましたら、私に断りなく弔電朗読の所を使わせてもらったと言っていました。東京で公開するときに連絡させてもらうつもりだったと言っていました。世の中には、全てをなげうって戦争の謝罪に取り組んだ人がいるのです。いろんなことを学ばせていただきました。ではなるべく早く、報告書を送ります。 坂口 憲一郎

このメールを坂口さんの制作した深夜便「明日への言葉」の放送情報を知らせる、「坂口憲一郎情報 N02」に書き込み、盛岡長善寺研修会に参加した人を中心に生まれた、坂口憲一郎さんファンクラブ会員に送りました。

すると、早朝5時頃にFAXを送った、盛岡市在住 石川勲子さんから「坂口さんのメールに書かれている、駒井修さんの講演を聞いたことがある」という電話が、FAX送信直後にかかってきたのです。石川さんは坂口さんが駒井さんとお知り合いだったことが分かり、驚いたに違いありません。駒井さんの講演会の様子が岩手日報に掲載され、記事の写真に自分が載っていたので、記事を切り抜いて財布に折りたたんで毎日持って歩いているそうです。早速、その記事をFAXで送信して頂き、黒ずんだ記事を見ました。2015年10月岩手日報に掲載された記事でした。見出しは、

盛岡てがみ館トークイベント―[出征先から愛情の手紙] 駒井さん亡き父を語る「戦争繰り返さないで」

私は、記事に書かれている駒井さんの住所を頼りに、駒井さんの電話番号を調べ、坂口さんが盛岡で行われた講演会のため来県したことを伝えました。その後、駒井さんにもう一度電話をかけた時の事です。奥様がインターネットで「駒井修」で検索すると詳しい事がわかることを教えて下さいました。

https://www.google.co.jp/search?hl=ja&q=%E9%A7%92%E4%BA%95%E4%BF%AE&lr=lang_ja&gws_rd=ssl

実は、この話しは5月に備前を訪問した時、赤穂線の電車内で坂口さんから伺っていました。あの時は、日本が犯した戦争の歴史に関わる大きな仕事をした方なんだな〜と、坂口さんの過去に関わった重大な仕事の一つとして聞いていました。坂口さんは、それは、それは、とても真摯に話して下さいました。戦争体験もなく、何の質問も出来ない私に、なぜ、こんなに熱心に話して下さいのかしら？と思いつつ、その息遣い、顔の表情から、私に何かを伝えようとしている事を感じはしても、ただ、うなずきながら黙って聞く事しか出来ませんでした。

駒井さんと話した時、あの時の坂口さんの言葉には、命があった事に気が付きました。駒井さんの、お父さんの代わりにイギリスに誤りに行った事、人知れず世間から遠ざかる様に暮らした事の一つ一つのお話が心に響き、やっと、坂口さんの思いを理解することが出来ました。戦争の歴史証人でもある駒井 修さんと出会った事が、深く平和の尊さを考える機会になり、お二人の一言、一言が深く心に刺さり離れる事はありません。

ドキュメンタリー映画「クワイ河に虹をかけた男」は東京「ポレ、ポレ東中野」で8月27日から9月16日までの上映を皮切りに全国で上映会が計画されるそうです。 <http://www.mmjp.or.jp/pole2/>

◆「鎮魂と笛壺」の声・・・を読んで 駒井 修（岩手県盛岡市）



残暑お見舞い申し上げます。
立秋となりますが、依然 酷暑が続いておりますが
その後 お変わりございませんか？
私は毎年、この八月は「鎮魂の月」に決めており心静かに
手を合わせております。
今月は横浜英連邦の拝む月でしたが欠席となりました。
「鎮魂と平和の笛壺」の声を読ませてもらい、横浜の件も
思い出しております。

<http://www.us-japandialogueonpows.org/Komai-J.htm>

◆長善寺講演を聴いて 深見寿賀子（福岡県）

今夏の異常な猛暑では各地で熱中症が続出していますが、日々お忙しくしていらっしゃる高館さんは大丈夫でしょうか。また、続いて発生する台風の被害はありませんでしょうか。

過日にはキャロルさんのハープ演奏と美しい歌声の録音をお送り下さりましてありがとうございました。

“I YOU WE”国境を越えた人と人との心の繋がり、透明感がある優しい歌声は心に染み入りました。

先月は堀先生の仏教婦人会に於ける録音をお聴きして、高館さんの講演では「支援活動への思いや活動の流れ」をより深く知り得たおもいでお聴きできましたし、高館さんの語り方には温かみが溢れもうお会いしたことがあるような錯覚を覚えました。また坂口さんと堀先生のハソウの演奏と共に高館さんのエスプレントによる”鎮魂の歌”の歌と美しい歌声には感動しました。 ありがとうございます。 深見 壽賀子

「岩手訪問記」

後藤義治さんは、5月15日～17日まで岩手県を訪問しました。

「岩手訪問記」を寄稿していただきましたので、3回シリーズで掲載します。

- 1、「釜石市立唐丹小学校の今」 EEC 通信 72 号（7月号）
- 2、「旅での出会い」 EEC 通信 73 号（8月号）
- 3、「旅の路すじ」 EEC 通信 74 号（9月号）

— 旅の路すじ —

後藤 義治（北海道札幌市在住）



○秋田へ

出発の日、外は雨、出掛ける時間が近づいた頃雨は上がった。まだ 30 分ほど早い。女房殿が言う「雨がまた来ない内にさっさと行きなさい」その声を背に家をあとにする。空港行の電車は 1 度乗り換えなければならない。駅の表示板には「空港へ行かれるお客様は〇〇駅で乗り換えとなります」と変な日本語で表示してある。「空港までの乗り換えは 4 カ所あるぞ、ウルサイバカヤロウー」と頭の中で叫ぶ。やっぱり少し興奮しているようだ。とは言うものの日航 2827 便は時間通り飛び、上空では機長が「この先、気流が不安定だからシートベルトを」とのアナウンスにもかかわらず飛行機は少しも揺れず、定時より 5 分程早く着いた。秋田市内へは地元のタクシー会社が相乗りのジャンボタクシーを運行しているがネット通信をやらない者には利用できない。ここはタクシーで行くしかない。タクシー乗り場に行くとなりのよさそうな初老の運転手がいた。乗る前に料金を聞くと 6 千円もあれば十分と言う。結果は 7 千五百円を超えた。インチキしたようにも思えないから、止むを得ないでしょう。

ホテルは多少くたびれた感じはするものの対応も良く、寝心地も悪くない。何よりも嬉しかったのは最上階の大浴場だ、温泉宿と少しも変わらない。翌朝も小原庄助さんを決め込んで大満足。

○藩が主導した芸術文化

先月は秋田県立美術館の藤田嗣治の絵についてふれた。こちらは国際的だが、一方国内いや身近な秋田県に目を移せば、駅前に広大な千秋公園がある。ここは秋田藩の城下町だが関ヶ原の戦いの後、転封（1602 年）された佐竹義宣が興した城跡だ。秋田藩には二つの功績がある。そのひとつは久保田城を中心とした城下町を築き 200 年の年月をかけて、秋田という近代都市を作り上げた。一方文人誉れも高く特に 9 代目の藩主 佐竹義和（1775—1815）は妻 伊代（1772—1816）と共に書画に秀れ、明治の廃藩置県に至るまで、代々、伝統文化を維持する礎となった。今も佐竹藩主の業績は千秋公園の資料館に展示されている。

○いざ盛岡へ

文化都市 秋田を後にして盛岡に向かうのだが暇な時は何でも目に入る。ベンチに腰掛けてボンヤリしていると目の前を大きなゴミ収集車を押しながらゴミ集めの係員が来た。前方には分別用ゴミ箱が並んでいる。鮮な手さばきで車にゴミを移し換える。終わるとゴミ箱清掃を始めたが丁寧なのはもちろん、まるで赤ちゃんの世話をする母親同然だ。私はとんで行って握手を求め、ご苦労様と声を掛けたくなる。熟練者というより立派な仕事人だ。もし、私が市長なら絶対に表彰する。

こまち 26 号が秋田駅を発車する。順調にスピードを上げる、乗り心地は極めてよい。1 時間も走ったろうか列車は仙岩トンネルに入る。ここは県境、国見峠の下だ。昔、安部貞任征伐の時、武将源義家（頼義の長男）の軍勢がここを切り開いて通ったという。今は居眠りしている間に通り抜ける。間もなく雫石だ、私がこの名を知ったのは航空機事故の時だが雫石の歴史は古く南北朝の時代にこの名があったという。但し表記は滴石だった、雨下石と書いた例もある。ほどなく「こいわい」駅を通過、盛岡に向かう。高館さんてどんな人だろう。唐丹希望基金になぜ情熱を注ぎ込み続けられるのだろうか。出会いは先号で書いた様に突然だった。

盛岡は縄文人の足跡が発見される程文化の歴史は古い。また先土器時代の彫刻刀形石器や多数の土器が発見されている。高館さんが須恵器ハソウに関心を寄せたのもこんな背景からだろうか。ハソウは多目的容器のようで漢字を当てると罍と書くそう。また酒器の場合は匜（はんぞう）とも書くという。もし我が家の遠い、とおい、トオーイ祖先が使っていたとすれば匜だろうと思う。大きな物は 5 升も入る器があるそう。が休みの日はろくに顔も洗わない自分を省り見れば、我が祖先の祠には罍の器は無かっただろう。ついでながら高館さんの矢巾では「ちゃぶ台返し世界大会」が毎年開かれ、今年は 10 回目だという。お父さん達の日頃のうっ憤を晴らそうとちゃぶ台を力一杯ひっくり返し、上に載ったサンマのおもちゃの飛距離を競うそう。

世界記録は?9 年前埼玉県の男性が出した 9 m20 c m だ。文化って色々ありますね。

それはさて置き矢巾は一次産業の町だが、名の由来は矢羽場又は矢幅と書き、先に書いた国見峠の開道を命じ

た鎮守府将軍 源頼義が安倍貞任を征する時、矢を作るための羽を集めた場所との言い伝えがある。

○銀河ライン JR 釜石線

さて盛岡での Rendez-vous を終え 16 日の朝、はまゆり 3 号で釜石に向かう、花巻までは楽しい思いをした、と前回書いたが、今でも思い出すと恥ずかしながら頬がゆるむ。

それはさて置き釜石線はエスペランチストにとって特別なところだ。各駅すべてに正式な駅名の他にエスペラントの副題がついている。例えば列車が花巻を出て 1 時間ほど走ると、宮守という駅がある。副題は Galaksia Kajo、ガラクシア カーヨと読むが意味は「銀河のプラットホーム」だ。宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」のイメージにぴったりだ。



宮守は昔、宮杜、宮盛、宮護などと書かれていたが宮の字が頭についているから、山岳信仰を始めキリシタン信仰、オシラ神（御白髪？）信仰など多くの信仰やザシキワラシの伝説を生んでいる。今、遠野物語とされているが宮守発信の伝承も多いという。いずれにしても人々の想を形にした架空の世界を生む地場なのかも知れない。北海道でも旭川市の近郊にカムイ コタン（神々の村）があって、多くのアイヌ ユカラ（アイヌ口伝の叙事詩）が語られている。特に若くしてこの去った知里幸恵のシマフクロウ神が自らうたった謡「シロカニペ ランラン ピシカン世を（銀の滴 降り、降り 回りに）」が有名なのは勿論だが内容がすばらしい。

話は横道にそれたが釜石に行くにはもうひとつの難所があった。ご存知の仙人峠だ。今は 3 分にも及ぶトンネルが掘ってあり列車は 2 分そこそこで通り抜ける。だが、昔 仙人峠は遠野盆地から北上山地の背梁（887m）を越え、早瀬川沿いに足ヶ瀬を通り沓掛から急な坂を上り、峠を越えると急斜面を下って甲子川を渡り釜石に入る。

かつて釜石はラグビー王国だった。そのトップスター選手が釜本。五郎丸より人気があった。平和日本は鉄工産業に陰りが出始める。釜石ラグビーを支えてきた新日鐵（鉄工会社は社名に鉄の字は使わない「金を失う」と書くからだ）釜石も例外ではない。ラグビーも少しずつ尻つぼみになる。今は三陸鉄道釜石駅の側に三陸鉄道を勝手に応援する会がモニュメントを作って置いてあるが足を止める人は希だ。とは言え新日鐵の巨大な煙突から、今日も力強く蒸気煙を吹き上げている。景気が上昇するのは大歓迎だが願わくばその鉄は武器以外の物に使ってほしい。アベノミクスが放った矢のとんだ先を見た者がいたかどうかかわからないが悪い予感がしてならない。

○ジェ ジェ 三陸鉄道だあ、唐丹の港だあ

三陸鉄道で唐丹へ。若い運転手は出発前気さくにカメラに納まってくれた。車内の壁に北海道医療大学のポスターが貼ってあった。この電車の乗客に北の大学の応募者がいるだろうか。多分支援の一方策だろう。形なんかどうでもいい、みんなで支え合ってこの鉄路を守りたいものだ。

程なくして電車は唐丹に着いた。外は雨、強くは無いがけぶって遠目はきかない。津波の跡はかたづけられ、さらに小雨のベールが悲惨を覆い隠す。駅前にあるたった一軒のコンビニで唐丹小学校への路筋を聞いてから、橋の上から港の周辺を見る。片岸方向には岡の上まで建物は見当たらない。旧唐丹小の存在も確認できなかった。天気良ければ行っても見られようが今日は無理のようだ。小白浜の方は土手の上に曹洞宗盛岩寺が認められる。建物もかなり残っている。

唐丹村は江戸期にその名が見えるから歴史は古い。慶長 16 年というから、今から 400 年以上前の事。スペインの探検家セバスチャン・ビスカイノが山の上か



らこの村落を見て Gascon(スペインとフランスの西北側国境にあたる地名)と名付けたという。唐丹は 1629 年、仙台藩へ盛岡藩の悪政を越訴したというから、気骨のある住民がいた村だったが、大津波の経験も二度ある。

○海は怒る、人間の知恵と気骨はいずこへ

1896 年三陸大津波が来た。人口 2807 人のうち 2100 人が犠牲になり、全戸数の 72%が流出した。唐丹・小白浜の両尋常小学校も同じ運命を辿った。その 16 年後、こんどは大火に見舞われ、小白浜では 93%の家屋が焼失した。1933 年、又しても三陸海岸は大津波の餌食となる。245 戸が流された。死者、不明者は 359 人に登った。生活の糧を得る漁船も 304 隻が海の藻屑と消えた。

災害に立ち向かい勝つには賢くあらねばならぬ。知恵を育まなければならない。学校は最も重要なツールのひとつだ。なぜか唐丹小学校の新校舎は着工までに 4 年以上の年月をかけている。しかも完成は 30 年の 2 月という。何で 7 年もかかるのか。私も戦後、仮校舎から始まった。ブルドーザーも大型建設機械も無かった時代だったが、本校舎は在学中(中学)に完成した。政府は経済優先の論陣を張った。復興特別所得税も所得税の 2.1%も取っている。まさかこの金は 3 本の矢に乗せて飛んで行ってしまった訳ではあるまい。

[東日本大震災 2011・3・11]を歌い継ぐ

♪♪♪♪...「鎮魂の歌」を歌おう...♪♪♪♪

作詞 千葉 隆男 作曲 太田代 政男

—参加登録募集(2020年まで)—

登録 Mail-Address : tchieko@cocoa.ocn.ne.jp

参加者 10,000 人目標!

参加者 9,778 名
毎月末に更新予定
(2016・8・14 現在)

8 月 14 日 高木 健一 (神奈川県大磯町)

おふくろの介護がつづいておりまして、催しやら様々な企画にも参加できずすみません。

老々介護の現実でして、いつの間にか自分たちのほうの疲れがだんだんと蓄積されてきているようです。

加えて、80坪のお借りしている畑を草ぼうぼうにさせるわけにもゆかず、連日早朝の2~3時間、頑張っております。少し前はトウモロコシ食べ放題、今はトマトの食べ放題。なんとかビタミンCで、夏を乗り切りたいところです。

さて、その畑作業をしているときに、いつか知れずにくちずさんでいた「鎮魂の歌」なのでした。口ずさんだり、口笛だったり、ふいに、あのメロディーが、草取りする汗だらけの体からふっと、浮かんできているのでした。

美しい曲だなあ、とは前々から感じておりました。平塚の音楽家・岩崎先生からも「美しい曲を紹介していただきありがとうございます」の言葉もいただいておりましたが・・・真夏の、汗だらけの野良仕事のただ中でふっと、歌っていることに気が付くのでした。改めて、名曲なのでしょう、と思っております。畑仕事の真ん中からの、報告まで。